

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科 目		対象のニーズに合わせた日常生活援助		担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1年		1 (45)	実習	令和6年度前期/後期
科目目標					
看護の対象である人間を総合的に捉え、保健医療福祉チームの中で健康問題に対処するために必要な基礎的能力を養う。 健康障害を持つ対象の日常生活の状況を理解し、対象の未充足なニーズへの日常生活の援助を実施できる。					
授業概要					
病棟へ実習に行き、受け持ち患者を1名担当し、その人との関わりをとおして学ぶ。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ①・②・③・④・5・⑥・7・⑧・9・10・11・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	9	1 基本的ニーズの観察 2 基本的ニーズの充足状況の判断 3 未充足なニーズの分析 4 日常生活援助の計画 5 日常生活援助の実施と評価			
2	9				
3	9				
4	9				
5	9				
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科 目	看護過程の展開			担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1 年		1 (45)	実習	令和 6 年度後期

科目目標

看護の対象である人間を総合的に捉え、保健医療福祉チームの中で健康問題に対するために必要な基礎的能力を養う。

対象の情報を収集してニーズの充足状況を判断し、看護上の問題を特定して問題解決のために必要な看護計画の立案と実施・評価ができる。

授業概要

病棟へ実習に行き、受け持ち患者を 1 名担当し、その人との関わりをとおして学ぶ。

卒業時到達目標との関連

DP- ①・②・③・④・⑤・⑥・7・⑧・9・10・11・⑫

回数	時間数	授 業 内 容
1	9	
2	9	○実習 1 日目 実習する病棟の理解
3	9	○実習 1 ～ 5 回 受け持ち患者を通じて、看護過程の一連のステップを行う。 1 情報収集とアセスメント 2 問題点の明確化 3 計画 4 実施 5 評価
4	9	○実習最終日には、グループ各メンバーの学びを共有する。
5	9	

【成績評価の方法】

実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	地域・在宅での訪問看護の実際			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	2 年		2 (90)	実習	令和6年度前期・後期
科目目標 地域で療養する対象および家族を理解し、在宅看護を実践する基礎的な能力を養う。在宅療養を支える地域包括ケアシステムの実践を理解できる。					
授業概要 訪問看護ステーションに6日間行き、訪問看護師に同行し在宅で療養生活する対象及び家族の理解や訪問看護の実際を学ぶ。また、地域包括支援センター、地域連携室、居宅介護支援事業所へ1日ずつ行き、多職種に同行し、多職種連携・協同関連の会議への参加を通して、各機関・各職種の担う役割について理解する。					
卒業時到達目標との関連 DP- ①・2・③・④・⑤・⑥・⑦・8・9・10・⑪・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	9	臨地実習 地域包括支援センター 1. 地域包括支援センターの理解 1) 地域包括センターの役割 ①包括的支援事業 ②介護予防・日常生活支援総合事業 ③各職種の役割 2) 多職種協働による地域支援ネットワークの構築の実際 3) 地域ケア会議による個別事例の充実と地域課題の解決の実際			
2	9	臨地実習 地域連携室 1. 地域連携室の役割 ①入・退院支援の実際 ②各職種の役割 2. 病院と地域サービス提供者との連携の実際 3. 病院と病院、病院と介護施設との連携の実際			
3	9	臨地実習 居宅介護支援事業所 1. 居宅介護支援事業所の役割 2. 地域で暮らす要介護者及び家族のケアマネジメントの実際 3. 地域と病院・施設との連携の実際			
4	9	学内実習 1. 1週目の学びの共有 2. 各訪問看護ステーションでのオリエンテーション・情報収集			
5	9	臨地実習：訪問看護ステーション 1. 訪問看護の役割・機能 2. 訪問看護の実際 3. 地域で在宅療養をする対象と家族の理解 4. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割			
6	9				
7	9				
8	9				
9	9				
10	9				
【成績評価の方法】 ■ ルーブリック評価表					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目		急性期・回復期にある患者の看護		担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	2 年	実習G	2 (90)	実習	令和6年度前期、後期
科目目標					
健康障害をもつ人を身体・精神・社会的側面から理解し、急性期から回復期にある対象とその家族に対して、成人期、老年期における発達段階を考慮しながら身体機能の低下や機能の回復に向けた看護を実践するための基礎的能力を習得する。					
授業概要					
急性期・回復期にある成人期、老年期の患者を受け持ち、その人との関わりをとおして健康レベルに応じた看護の実践について学ぶ。看護過程の展開を行う中で、患者の全体像の発表を行い、対象の理解、看護の方向性を明確にする。又、カンファレンスを行うことで、成長発達過程や健康レベルに応じた看護についてグループで検討し、学びの共有を行う。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・10・11・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	9	臨地実習 1 各発達段階にある対象の理解 2 健康障害に伴う症状の観察と判断 3 健康障害が日常生活に及ぼす影響の判断 4 機能回復に向けた日常生活援助 5 生命機器や障害による苦悩・不安を抱える患者への精神的な支援 6 検査・治療のための援助 7 退院支援（地域生活へ向けた支援） 9 多職種連携			
2	9				
3	9				
4	9				
5	9				
6	9				
7	9				
8	9				
9	9				
10	9				
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	慢性期・終末期にある患者の看護			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	2 年	実習G	2 (90)	実習	令和 6 年前期、後期
科目目標					
健康障害をもつ人を身体・精神・社会的側面から理解し、慢性期から終末期にある対象とその家族に対して、成人期、老年期における発達段階を考慮しながら機能障害の程度に応じた生活調整のための看護や、身体機能の低下や苦痛の緩和への援助を実践するための基礎的能力を習得する。					
授業概要					
慢性期・終末期にある成人期、老年期の患者を受け持ち、その人との関わりをとおして健康レベルに応じた看護の実践について学ぶ。看護過程の展開を行う中で、患者の全体像の発表を行い、対象の理解、看護の方向性を明確にする。又、カンファレンスを行うことで、成長発達過程や健康レベルに応じた看護についてグループで検討し、学びの共有を行う。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・10・11・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	9	臨地実習 1 各発達段階にある対象の理解 2 健康障害に伴う症状の観察と判断 3 健康障害が日常生活に及ぼす影響の判断 4 苦痛や症状が軽減、改善するような日常生活援助 5 苦悩・不安を抱えている患者への精神的な支援 6 療養を継続していくための学習支援 7 検査・治療のための援助 8 退院支援（地域生活へ向けた支援） 9 多職種連携			
2	9				
3	9				
4	9				
5	9				
6	9				
7	9				
8	9				
9	9				
10	9				
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目		小児看護学実習		担当講師	各実習担当教員
学 科 名		学 年	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科		2 年	2 (90)	実習	令和 6 年度
科目目標					
発達段階や健康段階に応じた子どもやその家族への看護を実践する基礎的能力を養う。 ①小児の健全な成長・発達の促進、健康の維持・増進のための援助の実際を知る。 ②健康障害のある子どもとその家族に対して、発達段階を考慮した健康回復への援助ができる。					
授業概要					
①保育所へ実習に行き、子どもやその家族の反応をとおして学ぶ。 ②小児病棟及び小児外来へ実習に行き、受け持ち患児やその家族との関わりをとおして学ぶ。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ①・②・3・4・⑤・⑥・⑦・8・⑨・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	9	1 学内実習（1日） 1) 地域の子育て支援の実際について、学習する。 2) 保育所の地域における役割を理解する。			
2	9	2 保育所実習（3日間）			
3	9	1) 乳幼児の成長・発達の観察や判断 2) 成長・発達を促すための保育や遊びの実際 3) 安全教育・安全管理の実際			
4	9				
5	9				
6	9	3 病棟及び外来実習（6日間）			
7	9	1) 症状の観察と判断 2) 成長・発達や家族に及ぼす影響の理解 3) 健康回復の促進と苦痛症状の緩和への援助			
8	9	4) 発達段階に応じた安全・安楽な日常生活への援助 5) 治療への主体的な参加を促すための援助 6) ストレスや不安に対する援助			
9	9	7) 外来診療における看護の実際			
10	9				
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	母性看護学実習			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	2 年	実習 グループ	2 (75)	実習	令和 6 年度後期

科目目標

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者と家族の特徴を理解し、より健康的な生活を送り、親役割に適応するための看護を実践する基礎的な能力を養う。

授業概要

学内実習では、妊婦・産婦の事例（ペーパーペイシエント）から、特徴を理解し必要な看護を学ぶ。

病棟実習では、褥婦・新生児を受け持ち、特徴を理解し必要な看護を学ぶ。

卒業時到達目標との関連

DP- ①・②・③・④・⑤・⑥・7・⑧・⑨・10・11・⑫

回数	時間数	授 業 内 容
1	3	1 実習オリエンテーション 2 ロールプレイ 3 視聴覚教材での学習
2	9	4 妊婦・産婦の看護(学内実習) 1) 妊婦の看護 (1) 正常な妊娠経過の観察・判断 (2) 胎児の発育と健康状態の観察と判断 (3) 妊婦の健康診査と診察介助 (4) 妊婦に必要な日常生活指導 (5) 親になるための準備教育 (6) 妊娠期の異常と看護 (7) 社会資源の活用
3	9	(2) 産婦の看護 (1) 産婦と胎児の健康状態・分娩経過の観察と判断 (2) 産婦の心理状態 (3) 産痛緩和への援助 (4) 基本的ニーズへの援助
4	9	5 褥婦・新生児の看護（病棟実習） 1) 褥婦の看護 (1) 産褥経過の観察と判断 (2) 退行性変化への援助 (3) 進行性変化への援助 (4) 育児技術獲得への援助 (5) 母子関係確立への援助 (6) 社会資源の活用
5	9	2) 新生児の看護 (1) 新生児の経過の観察と判断 (2) 子宮外生活適応への援助
6	9	
7	9	
8	9	
9	9	

【成績評価の方法】

- 実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目		精神看護学実習 (精神に障害のある人の看護)		担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	2 年		2 (90)	臨地実習	令和 6 年度前期/後期
科目目標 精神に障害のある人をありのまま理解し、特徴に合わせた看護を実践するための基礎的能力を習得する。					
授業概要 この実習では、コミュニケーション技術を駆使して患者と関わり、患者の持つ苦しみを少しでも理解しようとする過程で人間関係を築いていく。そして日々の関わりを丁寧に振り返り自己理解と他者理解を深める。精神の障害による生きにくさはあるながらも、その人が主体となって社会の中でその人らしく生きていく支援を考え、障害された日常生活を整える看護を実践する。患者の健康部分に注目しながら自立性を引き出し高める看護を理解し、可能な範囲で実践する。					
卒業時到達目標との関連 DP- ①・②・③・④・5・6・7・⑧・9・⑩・⑪・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1～6	各9時間	臨地実習 1 精神に障害のある人の理解 2 精神症状と看護 3 日常生活の障害と看護 4 治療・検査と看護 5 対人関係の振り返りを通した必要な看護 6 治療的コミュニケーションを活用した援助			
7	9時間	学内実習 1 プロセスレコードカンファレンスによる個人およびグループでの対人関係の振り返り 2 対象理解、看護計画の追加・修正			
8～10	各9時間	臨地実習 1～6回同様 最終回はまとめの会を実施し、グループで学びを共有する。			
【成績評価の方法】 実習評価表に基づき評価する。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科 目		総合実習		担当講師	各実習担当教員
学 科 名		学 年	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科		2 年	2 (90)	実習	令和 6 年度後期
科目目標					
1. チームとして複数患者に看護を提供するために情報共有や協働していくことの必要性を体験を通して理解できる					
2. 多重課題の中での判断、優先順位の決定、さらに夜間の看護の特徴について体験を通して理解できる。					
3. 複数患者に対して、優先順位の決定をしながら質の保証のある看護を提供することができる。					
4. チームで看護を行うためのリーダー・メンバー役割について理解し実践できる。					
5. より良い看護を探究するためのカンファレンスのテーマを決定でき、チームで協働しながら運営できる。					
7. 病棟という組織における看護管理のあり方が説明できる。					
授業概要					
同行実習では看護師長、リーダー看護師、夜勤看護師に同行し、それぞれの役割や業務の実際を理解する。チームナーシングでは、学生チームで複数患者を受け持ち、チームで協働しながら看護を提供していくための準備や決められた業務内容の遂行、より質の高い看護の提供をするために必要な優先順位の決定、チームが協働していくために必要なリーダー、メンバーの役割について学ぶ。					
卒業時到達目標との関連					
DP- 1・②・3・4・⑤・⑥・7・8・9・⑩・11・⑫					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	9	1. 同行実習 1) 看護管理実習 看護管理の実際の理解			
2	9	2) リーダー同行 円滑に業務を遂行するために協力要請や、メンバー間の調整などリーダー役割の理解			
3	6	3) 夜間同行 日勤から夜勤への引き継ぎや夜勤の業務内容、限られた人数の中での優先順位の考え方・看護の実際の理解。			
4	7	2. チームナーシング 1) 情報収集 2) 翌日の1日の計画立案 3) 受け持ち患者の看護計画の立案			
5	9	2. チームナーシング 1) 情報収集 2) 翌日の1日の計画立案 3) 受け持ち患者の看護計画の立案			
6	9	4) チームで看護をするために必要な情報共有、報告 5) 複数患者の業務の優先順位の判断 5) 複数患者への看護実践			
7	9	6) カンファレンス 7) メンバー同行			
8	5	2. チームナーシング 1) 情報収集 2) 翌日の1日の計画立案 3) 受け持ち患者の看護計画の立案			
9	9	2. チームナーシング 1) 情報収集 2) 翌日の1日の計画立案 3) 受け持ち患者の看護計画の立案			
10	9	4) チームで看護をするために必要な情報共有、報告 5) 複数患者の業務の優先順位の判断 5) 複数患者への看護実践			
11	9	6) カンファレンス 7) メンバー同行			
実習最終日には、グループ各メンバーの学びを共有する。					
【成績評価の方法】					
実習評価表に基づいて評価を行う。					